

# 『<食といのち>をひらく女性たち』 出版記念 福島シンポジウム

原発事故後、福島では多くの女性農業者たちがいち早く立ち上がり、「復興する」主体として被災地での生業を再建し、人びとのつなかりを築いてきました。

本シンポジウムでは、地域復興に取り組む女性たちをゲストに迎え、各自の実践についてお話いただくとともに、本書執筆陣からのコメントもまじえながら、食と農の復興に向けた女性の役割と課題について考えてみたいと思います。

※本シンポジウムは、日本農村生活学会より地域活動助成を受けています。

【テーマ】 <食といのち>をひらく女性たち—原発事故後の福島から—

【日時】 2018年9月9日（日） 13:30～16:30

【会場】 福島県男女共生センター 研修ホール （二本松市郭内一丁目196-1）

【主催】 『<食といのち>をひらく女性たち』福島学習会実行委員会

【協力】 福島県男女共生センター

## 〈プログラム〉

◎企画趣旨説明 岩崎 由美子（福島大学教授）

◎実践報告

【報告者】

・五十嵐 裕子氏（元「カーちゃんのカ・プロジェクト」）

震災後、阿武隈地域の女性農業者らとともに「カーちゃんのカ・プロジェクト」の立ち上げに関わる。

・石井 絹江氏（石井農園）

浪江町から福島市に避難し、農業・加工事業を再開。紙芝居による原発震災の語り部も行う。

・高木 史織氏（編集者・イラストレーター）

震災後、東京から二本松市東和地域に移住し、地域おこし協力隊として地域活動に取り組む。現在は、編集者・イラストレーターとして活動。

・稲福 由梨氏（福福堂代表）

震災後、東京から田村市滝根町へ移住し、夫とともに農業従事。加工所「福福堂」を立ち上げ農産加工事業を展開。

◎パネルディスカッション

【コーディネーター】 岩崎 由美子

【コメンテーター】

・佐藤 一子氏（東京大学名誉教授）

・千葉 悦子氏（放送大学福島学習センター所長、福島大学名誉教授）

・宮城 道子氏（十文字学園女子大学教授）

※上記の報告者4名も加わり、会場からの質疑を受けながら行います。

【参加費】 無料（無料託児もあります。裏面にてお申し込みください。）

【申込方法】 メール・FAX（裏面の申込書）で下記までお申し込みください。

Mail : iwasaki@ads.fukushima-u.ac.jp

TEL/FAX : 024-548-8295 （福島大学行政政策学類 岩崎研究室）



<食といのち>をひらく女性たち—戦後史・現代、そして世界—  
佐藤一子・千葉悦子・宮城道子編  
農山漁村文化協会（2018年4月）

# 『<食といのち>をひらく女性たち』 出版記念 福島シンポジウム 参加申込書

必要事項を記入のうえ、メール、FAXでお申し込みください。(太ワク内必須)

※メールでお申込みの場合は事業名「福島シンポジウム」と下記必要事項を本文に記載してお知らせください。

連絡先 住所	〒 -		ふりがな		
			氏名 (代表者)		
電話/ FAX番号	電話 FAX	( ) ( )	性別 (性自認)	年齢	

※複数で申し込まれる場合には以下に申込者の氏名・性自認・年齢をご記入ください。記入欄が足りない場合は別紙(任意様式)にご記入ください。

ふりがな	性自認	年齢	ふりがな	性自認	年齢
氏名			氏名		
ふりがな	性自認	年齢	ふりがな	性自認	年齢
氏名			氏名		
ふりがな	性自認	年齢	ふりがな	性自認	年齢
氏名			氏名		

※以下は、差し支えなければご記入ください。

チラシの 入手先		職業、または 所属団体名	
-------------	--	-----------------	--

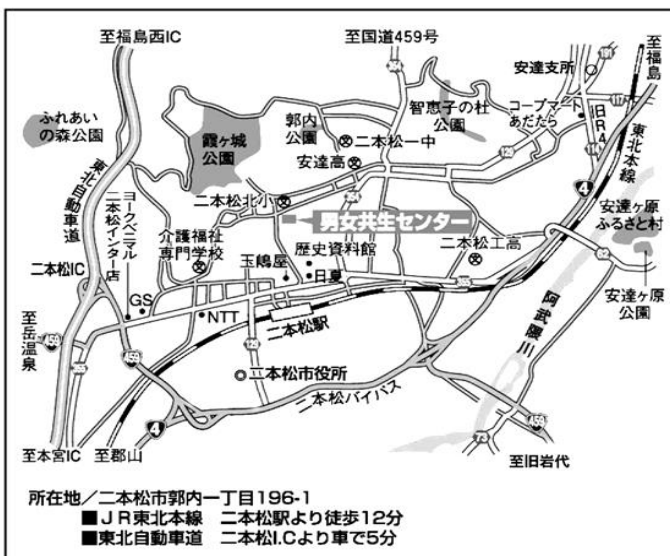
※無料託児申込書 締切：平成30年8月31日(金) ※ただし申込多数の場合は早めに締め切る場合があります。

お子さんの名前(ふりがな)	年齢	連絡事項

注1；1歳半～就学前までのお子さんをセンター登録ボランティアがお預かりします。

注2；お薬を飲んでいる、又は具合の悪い(発熱、感染症疾患等) お子さんはお預かりできません。

注3；お申込の方には後日詳細をお知らせしますので、住所等ご記入もれのないようお願いします。



## <お問合せ、お申込先>

### 『<食といのち>をひらく女性たち』 福島学習会実行委員会

(福島大学行政政策学類 岩崎研究室内)

● 電話・FAX 024-548-8295

● E-mail: iwasaki@ads.fukushima-u.ac.jp